

## 震災がれきを防波堤に、平塚で講演会/神奈川

2012年5月18日



「森の防波堤」の意義を説く宮脇名誉教授＝  
平塚市上吉沢、進和学園

東日本大震災のがれきを利用して、津波対策の「森の防波堤」づくりを提唱している宮脇昭横浜国大名誉教授の講演会が17日、平塚市上吉沢の社会福祉法人進和学園で行われた。宮脇さんは津波対策として森づくりの重要性とがれきの活用を強調。「がれきは焼却するより、できるだけ森づくりに利用すべきだ」と語った。

講演会は、競艇の収益金をもとにした「B&G財団」の「海を守る植樹教育事業」のリーダー研修会の一環。研修会に参加した全国の自治体職員ら約40人のほか、地域住民ら90人も聴講した。

講演で宮脇さんは、岩手県大槌町で行った「いのちを守る森の防潮堤」事業を説明。がれきを埋め、掘削で生じた土をかぶせてマウンドを作り植林を行った経緯を紹介。がれきはすき間があり、木質は養分になるため、森づくりのための格好の土壌になるとした。

また、今回の大震災や阪神大震災などの実例によって、森が重要な防災対策になると説明。潜在自然植生に基づく「いのちの森づくり」の意義を説いた。

参加者は講演後、「宮脇方式」の苗木栽培、植樹に取り組んでいる同学園の指導で、実習などに取り組んだ。